

<2016年度理事会議事録>

日時：2016年4月24日（日）

11:00～12:30

場所：早稲田大学大隈会館N棟201～202号室

出席者：桑山龍男（6）、登坂正夫（8）、山本剛生（10）、櫻井昭一（11）、内野秀夫（12）、塚崎義樹（14）、深谷 豪（15）、伊東勝英（16）、川崎清明、山本隆夫（17）、岡田浩司（18）、吉越昌治（20）、剣持典夫（21）、土屋 猛、萩原英次（22）、神保淳一（29）、川相智史（30）、佐藤佳一（32）、栗原勝義（35）、石川知行（38）、沢木拓也（45）、渡辺幸倫（46）、長友慎治（50）、吉村祐紀（64）
監事 鈴木豊（14）、市川泰夫（23）

出席者・議長等委任状提出者38名、賛成議決権行使者3名＝表決参加者41名
（総理事数65名）

<開会宣言及び議長選出>

石川専任理事（38）より理事会の開会宣言がなされ、吉越昌治会長（20）に議長をお願いしたい旨の提案がなされ全員異議なく了承された。

<議長挨拶、書記氏名>

議長は理事各位の会運営の協力を示した後、先の熊本地震に触れ、熊本在住の会員3名と連絡が取れたことを報告した。2015年度の印象的なイベントとして10月末の北信越地域別懇親会をあげ、地方在住会員とのコミュニケーションの大切さを強調した。また、本日の理事会では例年の事業報告・決算、事業計画・予算についての審議をして頂くとともにまた現執行体制は満6年となるため新たな役員、体制を提案する。さらに、記念会堂の建替え工事が始まっており、1月末の稲門体育会代表委員会で募金の決議がなされたので、それに沿った募金活動も審議していただくと話した。

<理事会の表決及び議案の訂正>

議長の指名により事務局の川崎常任理事は理事会の表決について次のように説明した。
理事会の議案は表決者の過半数の賛成で議案が承認される事を説明し、現時点で表決参加者は41名であることから、その過半数をもって議案が承認されることを説明した。
続いて、数か所の議案書の訂正事項について説明した。

<書記の指名>

続いて会則35条により議長は川崎清明氏（17）を書記に指名した。

<物故者黙祷>

議長から議案審議に先立ち、この一年間に亡くなられた会員の報告がなされた。
以上4名のご冥福を祈り全員起立し黙祷を捧げた。

平成27年5月7日 8代 川又幹夫氏

<議案審議>

議案 1. 新記念会堂（仮称）建設に伴う募金の実施

石川知行専任理事は、当会の所属する稲門体育会の決議に基づき、当会として応分の募金協力をするものであることを説明した。

<質疑>

岡田浩司氏（18）から、もし募金額が十分に集まらなかった場合はどうなるのかと、質問があり、議長から当会として精一杯努力したい、予算というよりは目標額と理解してほしいとの回答があった。採決の結果、議案 1. は原案の通り承認された。

議案 2. 2015 年度事業報告案

石川知行専任理事は議案書に基づき、主な催事及び重点実施項目について項目毎に補足を加えながら説明したあと、準会員の加入希望者牛田光則（56）氏について同期の理事武井宣樹氏より推薦があったこと。同氏は会則の加入条件である「現役部 2 年在籍」の条件は満たしていないが、人格・意欲は申し分なく加入妥当と判断されるので承認していただきたいとの説明があった。

<質疑>

山本隆夫氏（17）から遭難対策態勢の見直しについて確認質問があり、石川専任理事から遭難対策というよりは支援範囲を拡大し、現役支援の再構築として考えたいとの回答があった。さらに催事の実施日について誤記の指摘があった。採決の結果、議案 1. 事業報告案及び牛田光則氏の入会は全員異議なく承認された。

議案 3. 2015 年度決算案

<議案説明補足事項>

川相会計担当常任理事は当初予算と差異の生じた項目について説明を行った。

- （1）一般会計の収支について予算比大きな差異のある項目について説明を行った。収入面では会費収入が当初予算比 22 千円の収入増となった。会費納入対象者の納入率は 88%を維持した。支出面では催事活動費の請求が少なかったこと、慶弔費の減少、などから予算比約 229 千円減少し、次年度繰越金は前年度比約 34 千円増となった。予備費は当初予算を計上していなかったホームページの再構築の謝礼として 57 代廣光佑亮氏に支払ったものである。
- （2）山小屋資金会計は山小屋管理者への謝礼を一般会計からの繰入資金で支払った。
- （3）遭難対策資金会計は受取利息増のみの変動であった。
- （4）ワンゲル基金では支出面で部卒業者の借入返済に伴う免除金 200 千円を計上した。

長友常任理事より現役山小屋会計の現状について説明があり、大学の資金負担、山小屋の積極的利用、寄附等により安定的な資金運営となっている旨の報告があった。

<監査報告>

14代鈴木豊監事より2015年度の決算は4/4に鈴木・市川両監事が会計監査を行い、適正に処理されている旨の報告があった。

<質疑>

特に質疑はなく、採決の結果、議案2. 2015年度決算案は全員異議なく承認された。

議案3. 2016年度役員案

<議案補足説明事項>

川崎常任理事（事務局）は執行部及び理事、特別委員会、現役部コーチなど変更のあった点について説明を行った。

（1）執行部の変更

吉越執行部の2年3期（6年）の任期満了に伴う新会長・副会長、新任・留任常任理事案を説明。専任理事は任期を2年残していることから留任するとの説明を行った。その他交代予定理事の説明をした。

（2）特別委員会の新任

- ・会報編集委員会 大門真一朗（62）、青木 彩（64）
- ・ホームページ編集委員会 栃谷佳宏（52）
- ・現役活動支援委員会 大家敏宏（35）、尾形祥吾（64）

（3）コーチの新任

長友慎治（50）、廣光佑亮（57）、田中理沙（61）→全員留任のため削除

<質疑>

特に質疑はなく、採決の結果、議案4. 2016年度役員案は全員異議なく承認された。

新会長候補の佐藤佳一（32）氏より新会長としての抱負と決意の表明があり、新体制の候補者、副会長の市川泰夫氏（23）、常任理事の神保淳一氏（29）、渡辺幸倫氏（46）が紹介され、新任理事となった山本隆夫（17）、萩原英次（22）の両氏も併せて紹介された。

議案5. 2016年度活動方針および事業計画案

佐藤佳一新会長は吉越執行部によって構築された体制、活動方針を踏襲しつつ、新しい企画を取り入れて会の活性化を図りつつ、会員相互の親睦、現役部の健全な発展をサポートして行きたいと基本方針を示したあと、議案書に基づき補足を加えながら下記につき重点的に説明を行った。

- （1）フェイスブックなどを加えた情報発信ツールの多様化を図りつつ、会員の親睦を図り、年10～12回の催事開催を目標にする。
- （2）遭難対策体制の見直し、催事・就活支援、執行部の現役部員会への参加など現役部との交流・支援を強化する。
- （2）会報内容の再検討、HP、フェイスブック、メーリングリストの活用を図る。
- （3）会費納入率の維持・向上、口座振替の推進の他、山小屋募金箱による現役山小屋会計の財政安定化を支援する。
- （4）催事については実施場所の再検討を含め、地域別懇談会、世代別懇親会、現役交流会なども工夫しながら実施する。
- （5）新記念会堂（仮称）については300万円の目標達成に努力する。

<質疑>

特に質疑はなく議案5. は原案のとおり承認された。

議案 6. 2016 年度予算案

川相会計担当常任理事は議案書に基づき前年度実績比大きく変動する項目につき補足を加えながら説明した。

<議案補足説明事項>

- (1) 一般会計年会費収入については2015 年度実績を踏まえて策定した。
- (2) 一般会計支出面では特に変動する支出項目はなく、2015 年度並み予算とした。
- (3) 遭難対策資金会計、ワンゲル基金会計では特別な支出増はないが山小屋資金会計は山小屋管理のための交通費を見込み一般会計からの繰入額を50,000 円とし、予備費として計上した。

<質疑>

萩原英次氏（22）よりワンゲル基金会計の免除金については予算計上についての質問があったが他に、質疑はなく、採決の結果、議案 6. 2016 年度予算案は全員異議なく承認された。

<現役活動報告>

沢木拓也（45）監督より現役の人員構成、新人の獲得状況（現在 8 名 男 7、女 1）、活動内容などの詳細な説明があった。

<閉会宣言>

吉越議長は全ての議案の審議が終了した事、議事進行についての協力に感謝の意を述べ、5 月 22 日の会員総会への出席要請をし、閉会を宣言した。

以上
書記 川崎清明（17）